

# 2021年度 環境経営レポート

運用期間 2021年4月～2022年3月



田中建材株式会社

発行:2022年9月25日

## 目 次

項 目	ページ
環境経営方針	2
組織の概要	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	7
主な環境負荷の実績 / 環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組結果とその評価	9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	13
緊急事態対応訓練	14
代表者による全体の評価と見直し・指示	15
これまでの表彰等	16
事業・製品(商品)	17
これからの取り組み	18



# 田中建材株式会社 環境経営方針

我々は、良い地球環境に向けての改善が最重要課題であることを認識し、次の世代に美しい高島市の自然と琵琶湖を守りそだて、全社員が地球環境の未来をみすえた言葉と行動がとれる会社として成長する。そして建設と環境事業を通じ、環境影響を改善する行動と配慮できる心を育てることを誓います。

- ① 当社の活動が環境に与える影響を的確に捉え、環境製品の販促・新技術開発により循環型社会に貢献します。
- ② 地域での環境活動に積極的に参加します。
- ③ 化学物質の削減と環境負荷の少ない商品の研究をします。
- ④ 省資源・省エネルギー活動の推進による二酸化炭素の削減を図ります。
- ⑤ 廃棄物の3R活動により、環境負荷の低減を計ります。
- ⑥ 用水の削減に努め、水資源の保護を図ります。
- ⑦ 工事に伴う建築資材のグリーン購入と事務用品等のグリーン購入を推進します。
- ⑧ 環境経営マネジメントシステムの定期的見直しを行い、環境パフォーマンスの継続的改善を実施します。
- ⑨ 事業活動に関わる環境関連の法規、条例、及びその他の要求事項を遵守します。



制定：2020年8月1日

改訂：2021年4月1日

田中建材株式会社

代表取締役

小島 守

## □組織の概要

### 1. 事業概要

#### (1) 名称及び代表者名

事業者名：田中建材株式会社  
代表者名：代表取締役 小島 守

#### (2) 所在地

本社・倉庫 〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1677番地14  
リサイクル工場 〒520-1603 滋賀県高島市今津町今津町北仰585番地1

#### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

代表者 代表取締役 小島 守  
環境管理責任者 専務取締役 平尾 友和  
環境担当者 総務部 堤 千賀子  
転落先 連絡先：0740-22-0217  
E-mail: [tsutsumi@tanakakenzai.co.jp](mailto:tsutsumi@tanakakenzai.co.jp)

#### (4) 事業内容

認証番号 0006365  
認証・登録日 2010年12月22日  
対象事業所 本社・倉庫、廃棄物リサイクル工場  
対象事業活動 建設業、産業廃棄物収集運搬業、廃材木、コンクリートガラの再生処理並びに販売業

#### (5) 事業の規模

- 法人設立  
1968年2月23日（創業より53年）
- 事業の規模

	単位	2019年度	2020年度	2021年度
資本金	千円	33,000	33,000	33,000
人員	人	14	14	16
売上	千円	603,000	475,777	320,920

※売上：7月1日～6月30日

- 事業所の概要

事業所	単位	2019年度	2020年度	2021年度
本社延床面積	m2	500.00	500.00	500.00
倉庫床面積	m2	200.00	200.00	200.00
本社・倉庫敷地面積	m2	3,000.00	3,000.00	3,000.00
リサイクル工場敷地面積	m2	6,000.00	6,000.00	6,000.00

#### (6) 事業年度 7月1日～6月30日

#### (7) 許可の内容

##### 7-1. 建設業

特定建設業許可証明書	
許可番号	滋賀県（特一3）第80088号
種類	土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、水道施設工事業、解体工事業
許可有効期限	2011年6月10日～2026年6月9日

一般建設業許可証明書	
許可番号	滋賀県（般一3）第80088号
種類	管工事業
許可有効期限	2011年6月10日～2026年6月9日

高島市下水道排水設備指定工事店	
許可番号	第301号
種類	下水道排水設備
許可年月日	2005年1月1日



## 7-2. 廃棄物処分業

滋賀県産業廃棄物収集運搬業	
許可番号	第2500042357号
種類	木くず／工作物のコンクリート破片およびこれに類する不要物
許可有効期限	1996年8月26日～2026年8月25日

滋賀県産業廃棄物処理施設使用届出書	
許可番号	今生第230号
種類	廃木材、コンクリートがら、アスコンがら
届出日	平成13年10月17日

※積み替え保管施設はない。

東京都産業廃棄物収集運搬業	
許可番号	第13-00-042357号
種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
許可有効期限	2021年8月27日～2026年8月26日

## 2. 保有車輛、建機、機器等

### (1) 保有車輛

自動車登録番号	車体の形状	最大積載量	車体サイズ(m)	低排出ガス車の導入状況
滋賀100せ 879	ダンプ	3450kg	長さ5.47m 幅2.3m	平成27年度燃費基準10%向上車
滋賀100は 3002	脱着装置付コンテナ車	7800kg	長さ6.41m 幅2.29m	平成27年度燃費基準10%向上車
滋賀100は 2832	脱着装置付コンテナ車	7400kg	長さ6.08m 幅2.20m	
滋賀100さ 6544	ダンプ	3750kg	長さ5.80m 幅2.23m	
滋賀100さ 1836	脱着装置付コンテナ車	3850kg	長さ6.81m 幅2.20m	
滋賀100さ 9310	脱着装置付コンテナ車	4050kg	長さ5.97m 幅2.20m	
滋賀400ち 4429	ダンプ	2000kg	長さ4.69m 幅1.69m	平成27年度燃費基準達成車
滋賀400ち 3195	脱着装置付コンテナ車	3000kg	長さ4.35m 幅1.69m	平成27年度燃費基準達成車
滋賀130と 3588	回送車	12300kg	長さ11.97m 幅2.50m	平成27年度燃費基準5%向上車
滋賀102ひ 888	ユニック車	2350kg	長さ8.19m 幅2.27m	平成27年度燃費基準達成車

### (2) 保有建設機械

種類	形式	バケット容量等能力	排ガス対応等
バックホウ	S K28 S R-6	0.1m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C20MR-3	0.1m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C40MR-3	0.2m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C60-7	0.25m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C78U S-8	0.25m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C100-6	0.4m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C128U S-8	0.45m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C130	0.45m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C138	0.45m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C120-8	0.45m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C138U S-11	0.45m <sup>3</sup>	
バックホウ	P C200-11	0.7m <sup>3</sup>	
コンバインローラ	TW41	4000kg	
タイヤシャベル	WA20-2E	0.28m <sup>3</sup>	

### (3) 保有コンテナ

種類	形式	台数	備考
12m <sup>3</sup> コンテナ	2.04m×3.56m×1.98m	1台	
8m <sup>3</sup> コンテナ	2.04m×3.56m×1.42m	2台	
6m <sup>3</sup> コンテナ	1.70m×2.73m×1.71m	1台	
4m <sup>3</sup> コンテナ	1.70m×2.73m×1.10m	1台	

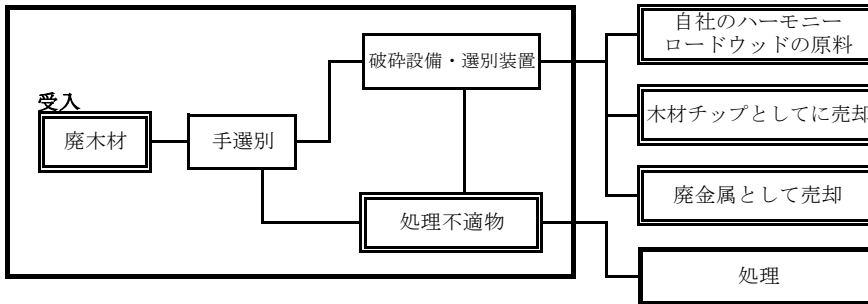
(4) 産業廃棄物処理

4-1. 中間処理施設

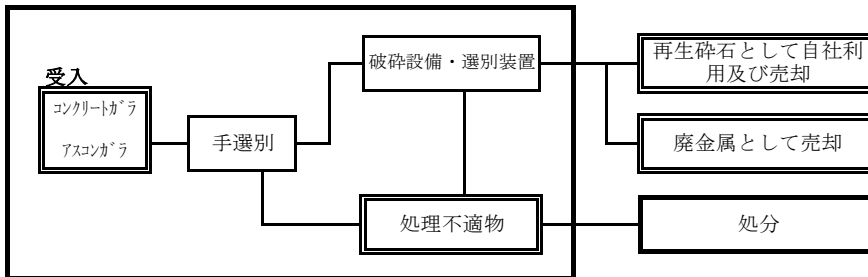
施設の種類	破碎設備
品目	木くず及びびかれき類
設置年月日	平成13年10月17日
設置場所	滋賀県高島市今津町北仰585-1
処理能力	384t/日 48 t/時間
稼動時間	8時間/日 (8:00~17:00)
処理方式	破碎機 (ジョウクラッシャーによる破碎)
構造・設備の概要	がれき：自走式破碎機 (コマツ ガラパゴス BR300J)、ふるい機
	木くず：自走式破碎機 (コマツ ガラパゴス BR200S)
	ハンマークラッシャー、磁選機、ふるい機
保有車両	ダンプトラック 3台 コンテナ 4台 ユニック 1台

4-2. 中間処理工程図

・廃木材



・コンクリートガラ・アスコンガラ



### 3. 建設業・廃棄物処理実績

#### (1) 建設業実績

##### 1-1. 過去3年間の建設事業実績

年度	2019	2020	2021
売上 (百万円)	588	441	271
件数	29	26	131

※決算・事業年度：毎年7月1日から翌年6月30日

##### 1-2. 産業廃棄物の処理量

収集運搬量	707 t		
中間処理量	3,386 t	うち再資源化量	3,052 t
最終処分量	0 t		
中間処理後の産物の処分量	0 t	うち再資源化量	0 t

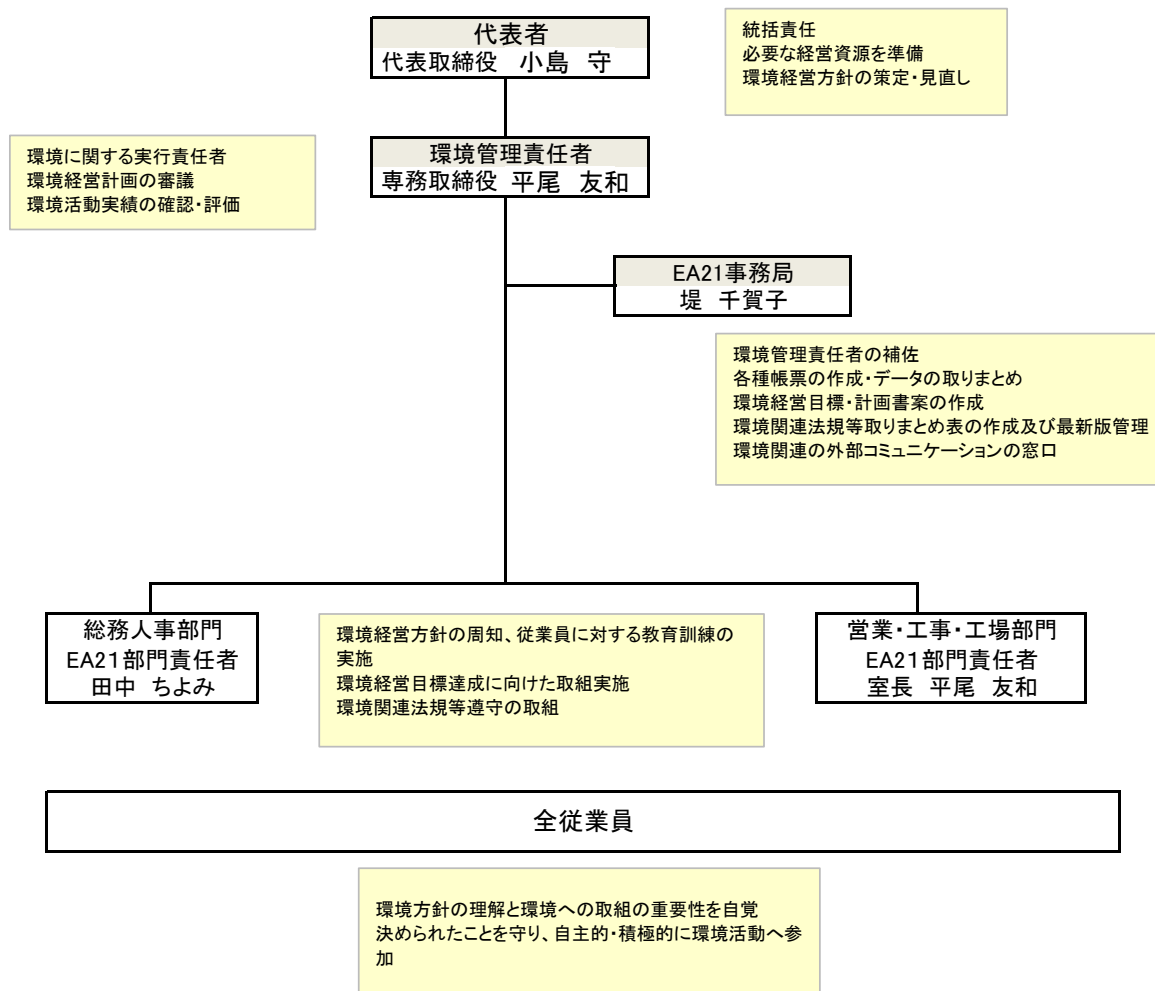
※当社は産業廃棄物処分業の許可を有しておらず、中間処分量は全て自社の建設業から排出されるものが対象である。

## □ 認証・登録の対象組織・活動

初回認証・登録日 2010年12月22日  
 対象事業所 本社・倉庫、廃棄物リサイクル工場  
 対象事業活動 建設業、産業廃棄物収集運搬業、廃材木、コンクリートガラの再生処理  
 並びに販売業

## □ 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日： 2021年4月1日





## □主な環境負荷の実績

項目	単位	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	233,047	223,297	253,597
受託収集運搬量	t	832	483	707
自社中間処理量	t	1,975	855	3,386
委託中間処分量	t		97	257
受託最終処分量	t	0	0	0
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	1.04	1.03	1.02
産業廃棄物排出量	t	1975	952	3,643
総排水量	m <sup>3</sup>	418	406	519
電力の二酸化炭素排出係数(kg-CO <sub>2</sub> /kWh)		0.492	0.492	0.492

※負荷の実績は工事現場を含む。

※委託中間処分量は自社では処理不能で外部業者に委託した自社工事から排出された廃棄物である。

※電力の二酸化炭素排出係数はイーレックス・スパーク・マーケティング㈱の2018年度調整後排出係数0.492kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用した。

## □環境経営目標及びその実績

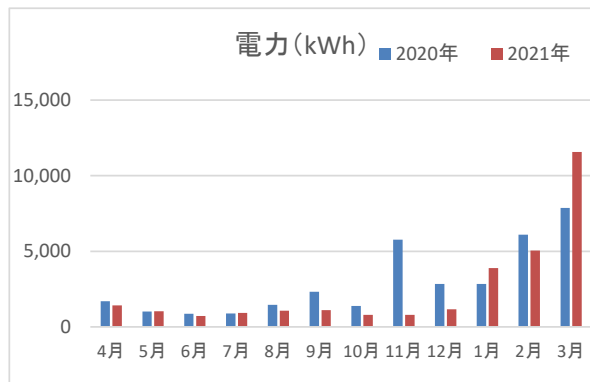
項目	単位	2020年	2021年		評価	2022年	2023年
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	18,519	18,334	14,534	○	18,149	17,964
	kWh	37,641	37,265	29,540	○		
	基準年度比	100%	99%	78%		98%	97%
	原単位	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	38.9	38.5	45.3	-	
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	27,465	27,190	21,038	○	26,915	26,641
	kWh	11,030	10,920	8,449	○		
	基準年度比	100%	99%	77%		98%	97%
	原単位	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	57.7	57.1	65.5	-	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	176,973	175,204	217,533	×	173,434	171,664
	ガソリン(L)	10,423	10,319	10,428	×		
	軽油(L)	59,222	58,629	74,938	×		
	基準年度比	100%	99%	123%		98%	97%
原単位	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	371.8	368.1	677.7	-		
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	222,957	220,728	253,105	×	218,498	216,269
原単位	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	468.4		788.5	-		
一般廃棄物の削減	kg	1,030	1,009	1,020	×	1,009	999
	基準年度比	100%	98%	99%		98%	97%
建設副産物の再資源化率の向上	%	98%	80%	100%	○	80%	80%
水道水の削減	m <sup>3</sup>	406	402	519	×	398	394
	基準年度比	2020年	99%	128%		98%	97%
溶剤使用量削減(あるいは適正管理)	行動目標(次項による)						
地域の環境活動への参	行動目標(次項による)						
売上高	百万円	476		321			

## □環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
<b>電力による二酸化炭素削減</b>	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	全体の電力使用量は基準年に対し21.5%削減し、目標を達成した。電力の全社における二酸化炭素排出割合は約6%である。リサイクル工場の電力使用量は仕事量によるところが大きく、今年度は削減となった。前年度に事務所の照明をLEDに替えており、本社・倉庫の電力使用量はやや減少した。次年度もエアコンの適切使用や不要時の消灯など、節電に努める。
原単位	-	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	○	
・ノー残業デーの実施	△	
・機械運転の適切稼働	○	
・使用しない事務機器の電源切断	○	



### 取組紹介欄

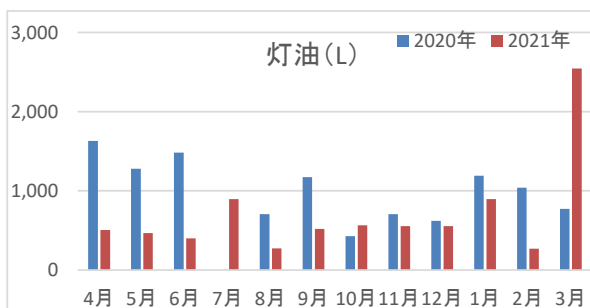
・事務所の照明をLEDに変更

・各部屋の空調機運転時の温度設定を守るため、温度コントロールの手に設定温度を表示し、視覚にて節電の喚起をする。(冬季暖房時の室温24℃、夏季冷房時の室温28℃)



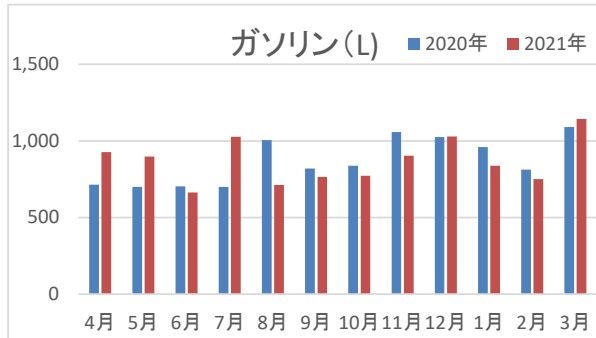
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	1,701	1,011	869	883	1,467	2,319	1,383	5,775	2,848	2,848	6,094	7,871
2021年	1,424	1,035	719	920	1,078	1,109	788	801	1,159	3,894	5,048	11,565

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
<b>灯油による二酸化炭素削減</b>	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	全社の灯油使用量は基準年に対し23%削減し、目標を達成できた。灯油の全社における二酸化炭素排出割合は約8%である。本社・倉庫が1%、リサイクル工場が99%である。灯油の使用量は舗装工事の仕事量によるところが大きく、リサイクル工場での後半の使用量が増加したが、全体としては二酸化炭素排出量が減少した。次年度も今年同様の取組を継続する。
・室内温度管理	○	
・重ね着の推奨	○	
・舗装工事での適切使用	○	
・		
・		



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	1,630	1,279	1,484	0	704	1,174	428	706	623	1,191	1,038	773
2021年	507	465	399	896	272	520	564	555	555	895	270	2,545

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	全社のガソリン・軽油使用量は基準年に対し23%増加し、目標を達成できなかった。ガソリン・軽油の二酸化炭素排出割合は約86%で最大である。工事の内容により軽油の使用量が変化するため比較は難しいが、次年度も工事による増減が予想される。特に軽油の使用量が増加しているリサイクル工場において、今後はBDFへの切り替えを検討している。
・アイドリングストップ	○	
・現地工事へは多人数での乗合で1台使用	△	
・燃費の良い車両(HV車)の優先使用	○	

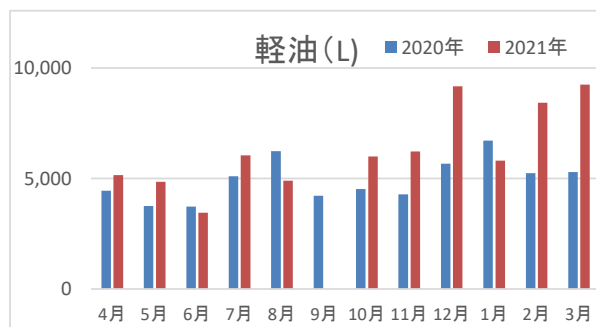


三菱アウトランダー



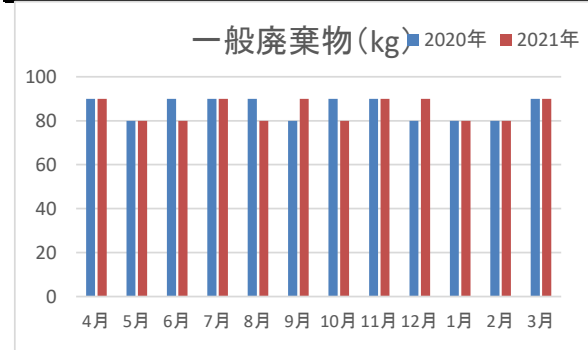
トヨタ 55プリウス PHV

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	715	699	703	700	1,005	820	838	1,057	1,025	959	812	1,090
2021年	927	898	663	1,026	712	764	772	903	1,029	838	750	1,144



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	4,443	3,758	3,726	5,106	6,236	4,218	4,524	4,286	5,668	6,720	5,247	5,290
2021年	5,158	4,847	3,450	6,048	4,900	0	6,002	6,219	9,179	5,811	8,436	9,251

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	一般廃棄物は、排出量が少ないため高島市指定のゴミ袋を購入し、市のゴミステーションに分別排出している。費用はゴミ袋の購入代金である。次年度も分別を徹底し、ペーパーレス化に取り組み、さらに削減するよう努力する。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	△	
・梱包材の再利用	○	



・事務所及び各控室より発生する一般廃棄物ごみを分別して捨て



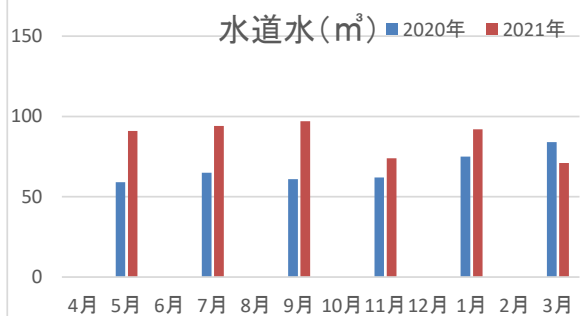
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	90	80	90	90	90	80	90	90	80	80	80	90
2021年	90	80	80	90	80	90	80	90	90	80	80	90

建設副産物の再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	産業廃棄物の排出は、土木工事と解体工事で発生する産業廃棄物である。今年度は解体工事の件数が増加し、産業廃棄物排出量も増加した。マニフェストを発行し、適切に処理している。自社排出のCo塊・As塊のがれきと廃木材はリサイクル工場で中間処理を行っている。中間処理業者ではないが、多量廃棄物排出事業者に該当し、滋賀県へ産業廃棄物処理計画実施状況報告書を提出している。次年度も分別を徹底し産廃の再資源化率100%以上を目指す。
・分別の徹底	○	
・再資源化先の開拓	△	

産業廃棄物置場の標識の設置



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	全社の水道水使用量は、基準年に対し28%増加し、目標を達成できなかった。水道水の使用割合は、本社・倉庫75%、リサイクル工場25%である。今後は雨水や井戸水を利用した洗車等、削減に努める。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・水栓をレバー式に交換	○	
・自動水栓取り付け	×	



・各手洗い場の水栓をレバー式に変更し、出しっぱなしをやめ節約心がける。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0	59	0	65	0	61	0	62	0	75	0	84
2021年	0	91	0	94	0	97	0	74	0	92	0	71

溶剤使用量削減(あるいは適正管理)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標		使用はなかった。
・SDSの表示の徹底		
・使用時には使用量を把握する		
・代替物質の検討		

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・有害性の少ない資材の購入	○	事務用品等はエコマークの付いた商品を購入する。その他の製品も環境ラベルの付いたものを選択する。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・燃費のよい自動車の採用	△	
・事務用品グリーン購入	○	

・事務用品及び作業衣等のエコマーク等の環境ラベルの付いた商品を購入する。





地域の環境活動への参加	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・淡海エコフオスターの継続	○	天候等により実施できなかった月もあるが、毎月の清掃活動等、継続して地域の環境活動を積極的に行う。会社周辺は常に除草や清掃を行う。次年度も継続する。
・地域の及び行政主催の清掃活動に参加	○	
・会社周辺の清掃活動	○	

(1) 地域活動 淡海エコフオスター

淡海エコフオスター制度は、エコ（環境）とフオスター（育成する）を結びつけ、環境こだわり県滋賀を表す「淡海」を冠した造語。各種団体や企業が継続的なボランティア活動により、公共スペースの一定区画を愛情と責任をもって行う美化活動である。



積雪のため実施できない期間は歩道の除雪作業を行う

(2) 地域活動

「びわ湖の日」環境美化活動の一環として湖岸および湖周道路等の清掃作業を実施



## □環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

主な適用法規等	該当する活動	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 滋賀県廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行細	産業廃棄物の収集運搬の許可（滋賀県他） 産業廃棄物の中間処理施設の許可（滋賀県）	○
	廃棄物の排出適正処理 マニフェスト管理実施中 産業廃棄物管理票交付状況報告書提出 産業廃棄物処理実績報告書提出	○
騒音規制法, 振動規制法 高島市環境基本条例	振動・騒音設備の届出 破砕施設	○
家電リサイクル法	クーラー、テレビ等の廃棄時対応	○
小型家電リサイクル法	高島市の指定収集場所に排出	○
自動車リサイクル法	自動車の適切な廃棄 解体業許可業者への引取	○
建設業リサイクル法	建設リサイクル法届出書（物件毎） 建設副産物情報交換システム（COBRIS）の提出	○
高島市下水道条例	下水道への排水 連結済	○
大気汚染防止法	石綿含有建材の有無に関する事前調査、結果の 報告、工事周辺への周知	○
フロン排出抑制法	エアコン・建設機械の簡易点検の実施 第一種特定製品設置に関する確認	○
建設業法	建設業の届出	○
道路交通法	安全運転管理者の選任	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。  
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。



## □緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日：2021/6/25	■実施場所 倉庫前
■参加者：小島、田中稔、平尾、山口、梅村、山田、谷口、柳川、伊藤、糸井、西村、田中喜、田中ち、峯森、堤	■実施内容 通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価： 現場・倉庫・事務所での火災発生時の対応、消火器の保存場所等について、社員全員が確認、対応できるようにした。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子	
	

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日：2021/6/25	■実施場所 倉庫前
■参加者：小島、田中稔、平尾、山口、梅村、山田、谷口、柳川、伊藤、糸井、西村、田中喜、田中ち、峯森、堤	■実施内容 流出事故対応、通報訓練
■評価： 現場での重機の油漏れ時の応急処置・油処理について、実践及び個別質問で確認、対応できるようにした。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子	
	

電力は、太陽光、LED、省エネ機器の導入・使用により目標は達成できているが、その他の部分で未達成となっている。工事量の増減及び人員の増加により、燃料等の調整はなかなか難しい。一人ひとりの行動や習慣を、もう一度見返すことが重要と考える。

取組には、問題はなく環境経営方針、環境経営目標・計画、実施体制の変更は必要ない。

## □これまでの表彰等

### ▶「ハーモニーロードウッド」の製品認定

当社の開発した木質加熱アスファルト舗装「ハーモニーロードウッド」が、滋賀県において本年度から始まった温室効果ガスである二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の削減に貢献する製品に認定される「しが発低炭素ブランド」に認定された。



### ▶ 地球温暖化防止活動環境大臣表彰

解体廃木材や間伐材をチップ化した舗装材において、規制記述での基準と同等の評価が得られる木質舗装を開発した。



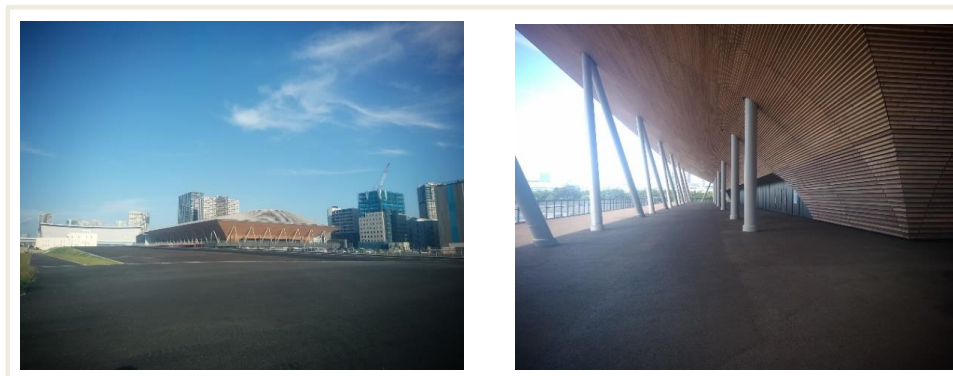
## □事業・製品(商品)

### ▶ 木質加熱アスファルト舗装【ハーモニーロードウッド】

木造家屋の解体工事で発生した廃木材を破碎処理し、ストレートアスファルトなどと加熱混合する。製品の約7割は木質でできており、公園の遊歩道などで利用されている。耐用年数は10年程度であり、車両の乗り入れにも対応可能である。

2005年に特許登録した木質加熱アスファルト舗装は、全国各地の史跡や景勝地などに採用され、全国で10万㎡を超える施工実績を有している。

2019年には東京オリンピック有明体操会場や選手村の公園で採用され、高島市で弊社が再生した木質を利用し、直営施工で約2万㎡を建物内外に施工させていただいた。



焼却処理され温暖化ガスを排出する解体廃木材や利用価値のない間伐材を破碎・チップ化し舗装材とするハーモニーロードウッドは、断熱性に優れており都市部のヒートアイランド低減に貢献する。また、焼却した場合と比較して、1,000㎡の舗装で17.3tのCO<sub>2</sub>を舗装空間に固定できる計算であり、エネルギー資源の抑制効果とCO<sub>2</sub>の貯蔵庫として、長期的な取り組みにより気候変動に貢献できる技術である。

2021年、耐用年数を経過したものやイベント終了後に撤去回収した製品を再加熱して再生材を製造するプラントを開発した。現行の製造機械の約2倍の再生木質加熱アスファルト舗装材の製造が可能となり、低価格で製造時の使用エネルギーを削減できるうえ、これまでに施工してきた木質加熱アスファルト舗装のリサイクルも可能である。



令和4年6月5日(日)に開催された『第72回全国植樹祭しが2020』のメイン会場において、弊社の木質加熱アスファルト舗装を採用していただいた。

## □これからの取り組み

### ▶ 環境に配慮した植林活動

高齢化し過疎化が進む山間であって、昭和56年より利用してきた採石採取場を閉山することにした。そこで長年お世話になった地域の方と協議し、桜の木を植え皆さんに楽しんでいただこうと考えた。

2020年試験的に植樹した木はシカに新芽を食べられるという被害に遭ったため、2021年は30本のソメイヨシノの苗木に保護網をかけ育ててきた。天候等によりすべて順調に育つことは難しいが、2022年も新入社員により30本の植樹を行い、守り育てている。

この桜の木が5年後に15cmの太さとなり、葉の面積が20㎡となると、1本の木が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>は46kg/Yとなる。30本であれば1,380kg/Yである。

10年後には太さ20cm、葉の面積35㎡となり、30本で2,415kg/YのCO<sub>2</sub>を吸収することになる。

千本桜を目指して20年、30年と植樹を続け、環境に配慮した美しい観光地を創造したいと考えている。



### ▶ 今後の取り組み

近年、空き家の解体や働き方の変化による家屋の修繕等が増加している。解体により排出された廃木材のチップ化や、コンクリートガラの粉碎等、リサイクル工場での機械・重機の稼働率が高くなり軽油等の燃料の消費も増えている。

今後は、廃食油をリサイクルした高純度バイオディーゼル燃料を使用し、CO<sub>2</sub>の削減に貢献する。



高純度バイオディーゼル燃料

**ROESEL**  
Recycle Ester Diesel fuel